

注目演題
Pick up!

Scientific Meeting

第37回日本レーザー医学会総会

2016年10月21～22日 旭川グランドホテル

学会長：大崎能伸(旭川医科大学呼吸器センター教授)

テーマ：ひかり輝け!!日本のレーザー医療

演題 1

一般演題1：皮膚科，形成外科1

男性の自費レーザー治療の特徴 (演題名：男性のレーザー治療[保険外]の検討)

近藤謙司 湘南鎌倉総合病院形成外科・美容外科

Summary

当院では，ここ数年間，1年に3,000～4,000件のレーザー治療を行っている。2015年の内訳は，保険の色素レーザー治療が1,790件，Qスイッチルビーレーザー治療が649件，そして自費のレーザー治療が1,440件，計3,879件であった(図1)。今回，当院で行っている自費レーザー治療の，男性の治療の特徴に関して検討を行ったので報告する。

2015年の自費レーザー1,440件のうち，男性は150件(10.4%)，2014年は1,433件のうち162件(11.3%)と男性の治療は約1割である。

男性に多いレーザー治療

疾患では，エイジングで生じる脂漏性角化症，老人性色素斑や母斑などが多く，その他，瘢痕，刺青，静脈湖，黄色腫などの患者もいる。脂漏性角化症および母斑に対しては，炭酸ガスレーザーを使用(図2)，老人性色素斑はQスイッチルビーあるいは半波長Nd：YAGレーザーを使用している。男性の治療の中で最も多い脂漏性角化症は，ダウンタイムを考え，半顔ずつ，2～3回の治療に分けて行っている。どの施設でも同じだと思うが，この治療は患者に

非常に喜ばれ，再発したときには患者は再来することが多い。

男性エイジング治療のポイント

男性は顔全体の若返りよりは，ポイントで生じる色調変化の治療を希望する患者が多かった。多くの男性は，結果を求めて簡潔な治療を望むことが多いため，患者の一番の訴えを速効解決できる治療を選択し，短期間集中で行う。

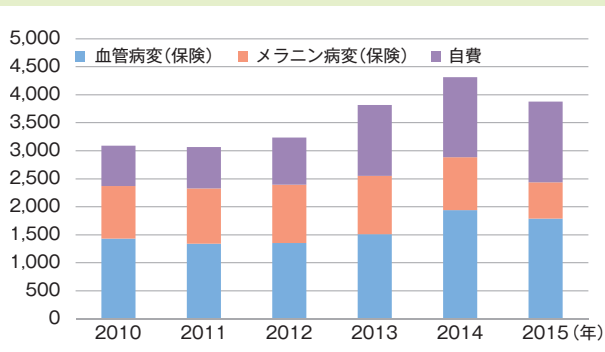
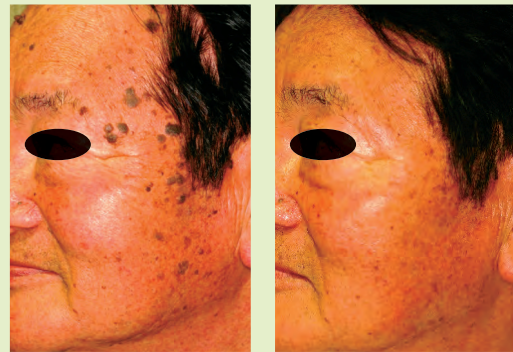


図1 最近の年度別症例数

自費診療は増加。機器が増えると症例数が増えるため，煩雑になりがちである。最近では年間症例数を3,000件に押さえるようにしている。



治療前

1回治療後1カ月

図2 男性に多い脂漏性角化症：炭酸ガスレーザーで治療

男性の場合は，治療1週後に診察，1カ月後に問題がなければ終了。この患者は，4～5年に1回受診している。